

災害時要援護者を支援しよう

突然の災害に見舞われたとき、
大きな被害を受けやすい災害時要援護者を災害から守るために、
地域で協力しあいながら支援していきましょう。

災害時要援護者とは

災害時に、自分の生命・安全を守ることが難しく、
何らかの支援を必要としている人たちを指します。

1 危険を察知しにくい

危険を知らせる警告が聞こえない、見えない障がい者など

2 危険に対して適切な行動がとれない

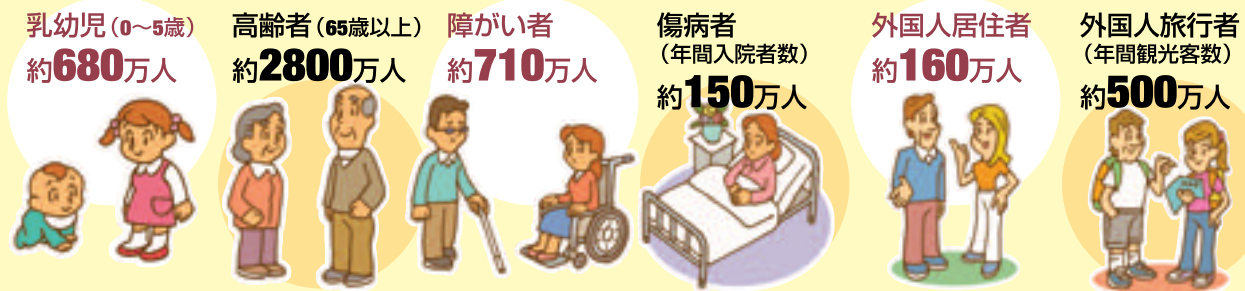
手足が不自由な傷病者・障がい者・高齢者・妊婦など

3 危険であることを理解・判断しにくい

ことがわからない外国人、判断力に乏しい障がい者・乳幼児、
地理に疎い旅行者など

災害時要援護者の現状(推計)

急速な高齢化や国際化が進む現在、日本では約4~5人に1人が災害時要援護者とも言われています。



※出典:乳幼児・高齢者・外国人居住者…平成17年国勢調査より 障がい者…平成19年版障害者白書より 傷病者…平成17年患者調査より 外国人旅行者…平成18年現在、国際観光振興機構(JNTO)調べ

災害時要援護者にやさしいまちづくり

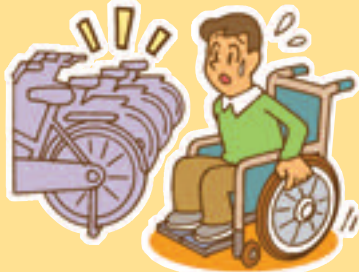
日頃から積極的にコミュニケーションを

普段の生活でのちょっとしたあいさつや交流などから、お互いの認識が深まり、いざというときに大きな力に。



災害時要援護者の身になって防災環境の点検を

放置自転車などの障害物はないかなど災害時要援護者にとって暮らしやすいか、防災環境をチェックする。



避難するときはしっかり誘導

ひとりの災害時要援護者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な救済体制を決めておく。



困ったときこそ温かい気持ちで

非常時こそ、不安な状況に置かれている人の立場に立って、思いやりの心を忘れずに。



災害時要援護者を安全に誘導するポイント

高齢者・傷病者

できるだけ複数で対応。緊急時にはおぶって避難する。



目の不自由な人

つえを持たない側の手で、支援者のひじの上あたりをつかんでもらうか、腕や肩をかす。階段などの障害物を説明しながら、半歩くらい前をゆっくりと進む。



耳が不自由な人

口を大きく動かし、はっきりと話す。身振りや筆談などで正確な情報を伝える。



外国人

身振り手振りで話しかけ、孤立させないように心がける。



車いすを利用している人

●段差を上る

段差を上ることを告げてから、ステップングバーを踏んで前輪を上げ、段の上に乗せてから後輪を上げる。



●段差を下りる

段差を下りることを告げてから、後ろ向きになり静かに後輪を下ろす。次にステップングバーを踏み、前輪を上げてから後方に引いて、前輪をゆっくりと下ろす。



●急な下り坂

後ろ向きで車いすを支えながら、ゆっくりと下る。介助用ブレーキがついている場合は、軽くかけながら下る。



●階段

まずブレーキをかけ(電動車いすの場合は電源スイッチを切る)、上るときは前向き、下るときは後ろ向きにして運ぶ。できれば3人以上の複数で協力して援助する。

